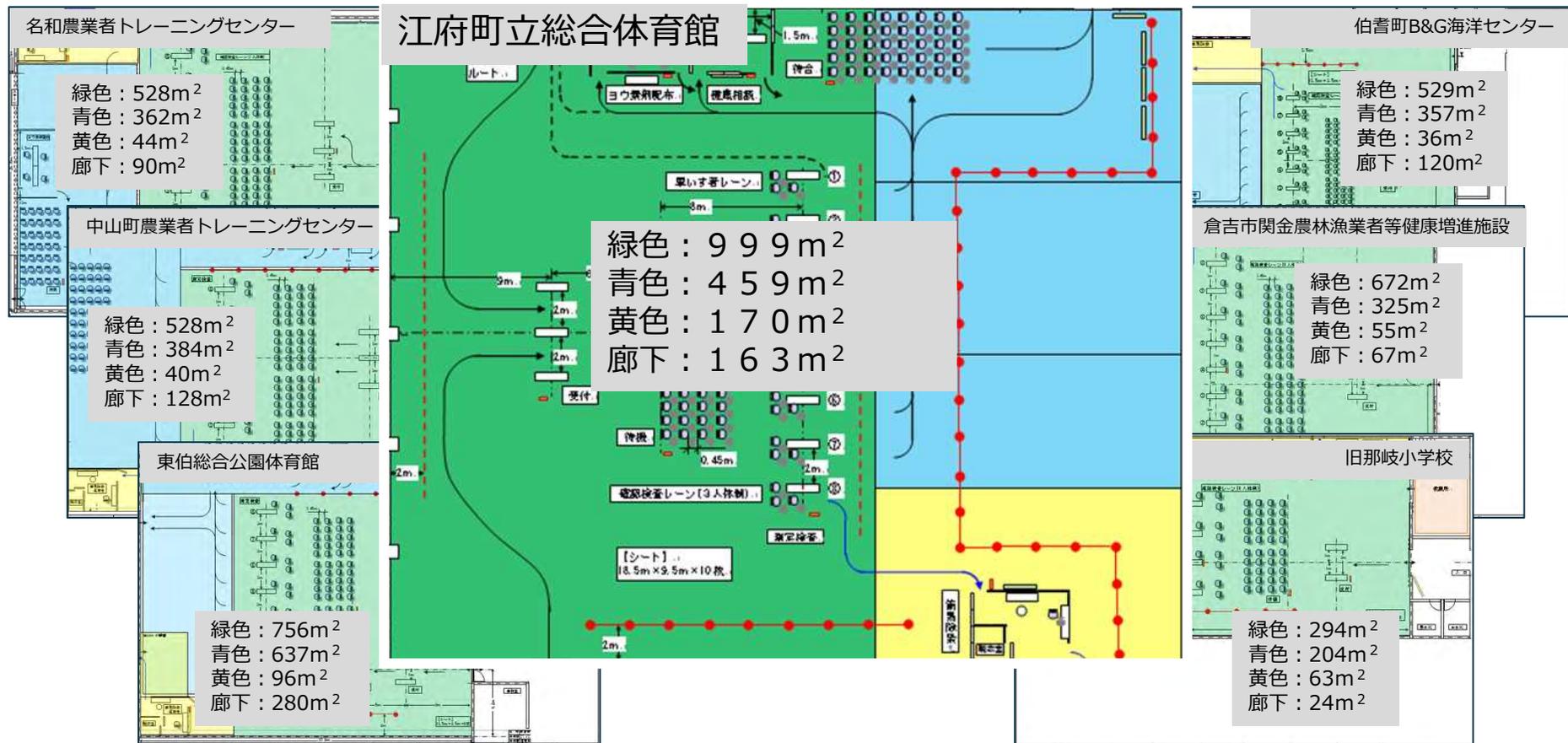


4. 資機材レイアウトの作成 (1) 床養生シート面積の決定

- 避難退域時検査に使用される7施設について、床養生シート面積を検討した
 - 未検査（緑）、既検査簡易除染不要（青）、既検査簡易除染必要（黄）および廊下（緑）の面積を推定
 - 床養生シートを種類毎（緑、青、黄）に、所定の大きさに標準化し、各会場の面積から必要なシート枚数を推定し、種別ごとの最大数量を算出



4. 1 資機材レイアウトの作成 (2) 資機材保管リストの確定 (1/2)

- 避難退域時検査に使用する資機材のうち、以下の品目を保管資機材とした
 - 避難退域時検査に使用することが確実であって、指定された検査会場に常設されていないことが予想される資機材
 - これらの資機材について、収容時の大きさを決定

区分	資機材名	保管対象	保管数量	収容サイズ	保管数量の考え方
放射線測定機器	GMサーベイメータ	○	11台	370W×178D×272H×11箱	レーン数8台+予備2台 簡易除染用1台
	空間線量測定器 (シンチレーションサーベイメータ)	○	3台	GMと同サイズを想定 370W×178D×272H	会場当たり2台+予備1台
	GMサーベイメータ養生用ラップファイル	○	5本	15cm×20m仕様 ※1 40×40×150×5本	会場当たり5本
従事者防護具等	個人被ばく線量計	○	60台	108W×30D×20H ※1	会場配置員数(47台)+予備(13台)
	不織布製防護具	○	240式	250W×350H×5厚×240袋 段ボール箱3箱に保管 (300W×350H×450D×3箱)	検査会場業務従事者基本単位60人分(予備数量含む)×2交代×2日分
	手袋、マスク、作業帽、靴カバー	○	各240式	段ボール2箱に保管 ※1 (537W×417D×413H×2箱)	
	検査従事者防護具回収用ポリバケツ	○	5個	φ530×620H (90L丸型ポリ)	
簡易除染用資機材	①ガーゼ、綿棒、ピンセット、タオル、ウェットティッシュ、ウエス、粘着テープ、バット、生理用食塩水、中性洗剤、オレンジオイル、紙コップ、大小ポリ袋、除染方法のチラシ ②除染後の着替え衣料	○	①各1式 ②5着	段ボール1箱に保管 (537W×417D×413H×1箱)	①会場当たり1式 ②会場当たり5着
	蓋付きポリバケツ、廃棄用ポリバケツ	○	各1式	φ530×620H (90L丸型ポリ)	会場当たり1式
	姿見	○	1台	400W×1500H	会場当たり1式

4. 1 資機材レイアウトの作成 (2) 資機材保管リストの確定 (2/2)

区分	資機材名	保管対象	保管数量	収容サイズ	保管数量の考え方
会場 設営	メガホン	○	3台	メガホン(210×291×319H) 3台を段ボール1箱に保管 (630W×430D×360H×1箱)	動員者及び住民への説明用
	養生シート	○	2643.3m ²	「床養生シートの面積の決定」参照	床養生シートを種類毎(緑、青、黄)に、所定の大きさに標準化し、各会場の面積から必要なシート枚数を推定し、種別ごとの最大数量を算出
	壁面養生ビニール	○	360m	25m/巻(φ100×300L)×15巻 段ボール1箱に保管 (537W×417D×413H×1箱)	高さ1.8m(通路含む)
	保護用椅子被覆ビニール袋	○	500枚	90Lポリ袋(900×1000×0.02t)を想定 500枚入箱サイズ460W×260D×200H	全椅子分(毎日取り替え)+予備
	パーテーション	○	15枚	1000W×50D×1800H 15枚	簡易除染エリアで使用
	筆記用具	○	10式	道具箱1箱に保管 (275W×H360H×70D×1箱)	受付チーム用1式、1式×レーン数、簡易除染チーム用1式
	①検査済証、検査結果記入用紙 ②会場の放射線量測定結果記入用紙	○	①各20,000枚 ②4枚	A4用紙 40,000枚 1箱(2,500枚)×16箱 (210W×300D×250H×16箱)	①鳥取県内UPZ圏内人口73,000人÷検査会場5+予備②時系列で記載、2箇所張り出し+予備
各種案内板	○	1式	400W×425D×1270H		
その他	室外灯	○	4台	210H×325W×1150D(収納時寸法)×4台	
	延長コード(5m)	○	2本	φ300×50mm×2本	
	発電機	○	1台	780W×616D×692H ※ガソリン17Lで5時間発電(定格時)	
	携行缶(ガソリン)	○	2缶	20L縦型(消防法適合品) 306W×506D×235H	消防法適用外となる40L未満を考慮して、2缶を配置 (発電時間:約10時間分)
	台車	○	かご型台車:1台 平台車:1台	①900W×600D×1364H ②収納時寸法を仮定	
スロープ	○	1台	アルミスロープ RA-300 905W×1250L		

5 まとめ

- **避難退域時検査資機材標準化システムの導入は、避難退域時検査に係る準備活動の確実性を担保する上で有効と考えられる**

【補足】

- 時間制約の無い、平時に準備活動をすることで、緊急時の活動負荷が低減される
- 準備資機材を標準化（共通化）することで、会場毎の準備活動が一律となる
- 広域的な輸送体制を構築することで、放射性プルームの影響等を受けないことから、活動の確実性が確保される
- 資機材を一括保管とすることで、指揮系統の合理化が図れ、緊急時対応の確実性が向上する
- 活動手順を標準化することで、指示と活動の関係が明確になり、迅速性と確実性が向上する

- **車両検査レーン数 = 2、住民検査レーン数 = 8、検査会場の駐車場可能台数 = 200とすることで、住民避難に与える影響を最小限に抑え、検査を実施することが可能と考えられる**

【補足】

- 段階的避難の1段目～3段目までは、避難経路上、検査会場ともに大きな滞留は発生しない
- 段階的避難の4段目で発生する渋滞は30km圏からの離脱には影響を与えないが、長時間車内に滞留させることは避難住民への負担になるため、30km圏外～検査会場の区間に一時的な滞留スペース（休憩場所）等を設けることが望ましい
- 段階的避難の4段目で、避難退域時検査会場で生じる住民の滞留は、車両の汚染割合を30%と仮定すると、200台（500人）程度生じる

- **20フィートコンテナ1台で1会場分の資機材を収容可能**

【補足】

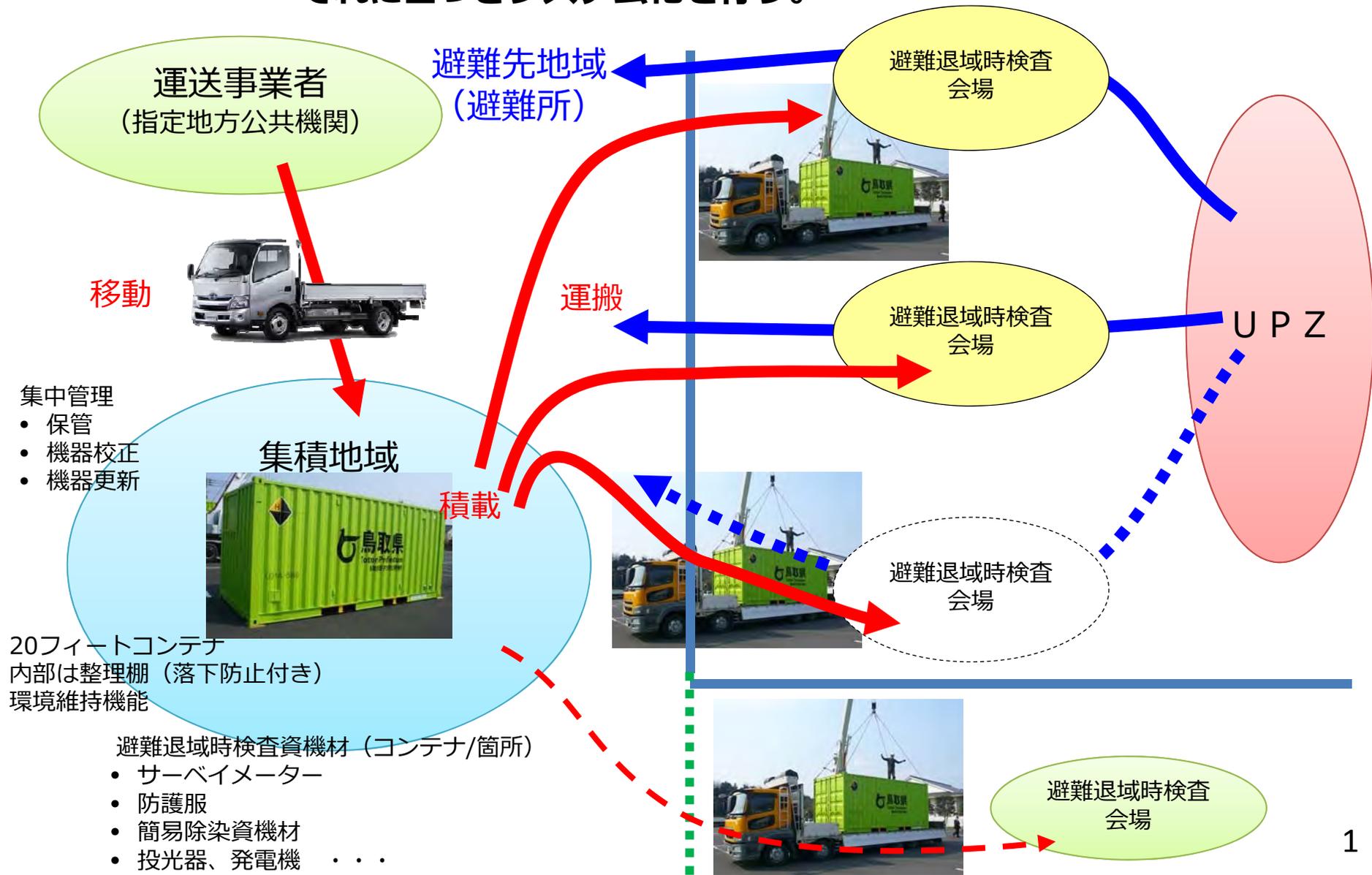
- 標準化資機材は20フィートコンテナ1台で保管可能であるため、予定される検査会場数分の避難退域時検査資機材標準化システムを用意することで、事前の準備が完了する

1 避難退域時検査用資機材の広域搬送

資料1-3-6

コンセプト

避難退域時検査の体制（資機材、人員等）を標準化し、それに基づきシステム化を行う。



2 大型車両除染システム

1 目的・概要

避難退域時検査におけるバス等の大型車両の除染用資機材を標準化した上で、コンテナに収納し一括管理することで迅速な輸送体制を構築。

2 コンテナに収納する主な資機材

- ・大型車両除染用テント
- ・高圧洗浄機
- ・発電機
- ・排水処理ポンプ 等



【運用イメージ】

平常時



- 資機材をシステム化し、コンテナに収納して、一括管理。
- いつでも輸送業者が搬送可能な状態にしておき、被災していない地域から被災地域の近傍まで輸送を行う(輸送の主動を確保)。

災害時



- トラック等で避難退域時検査会場へ輸送。
- 要員は参集するのみ



- 避難退域時検査会場でテント等の資機材を展開し、大型車両の除染を実施

3 車両除染用資機材の設置手順及び平面図



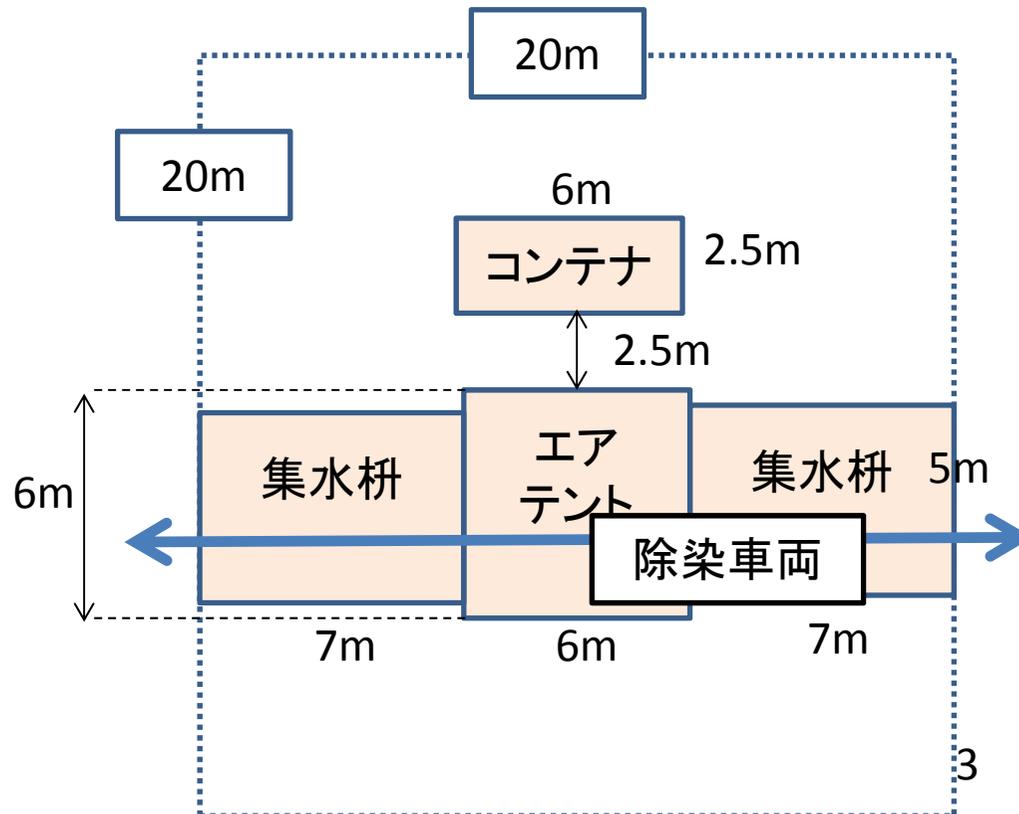
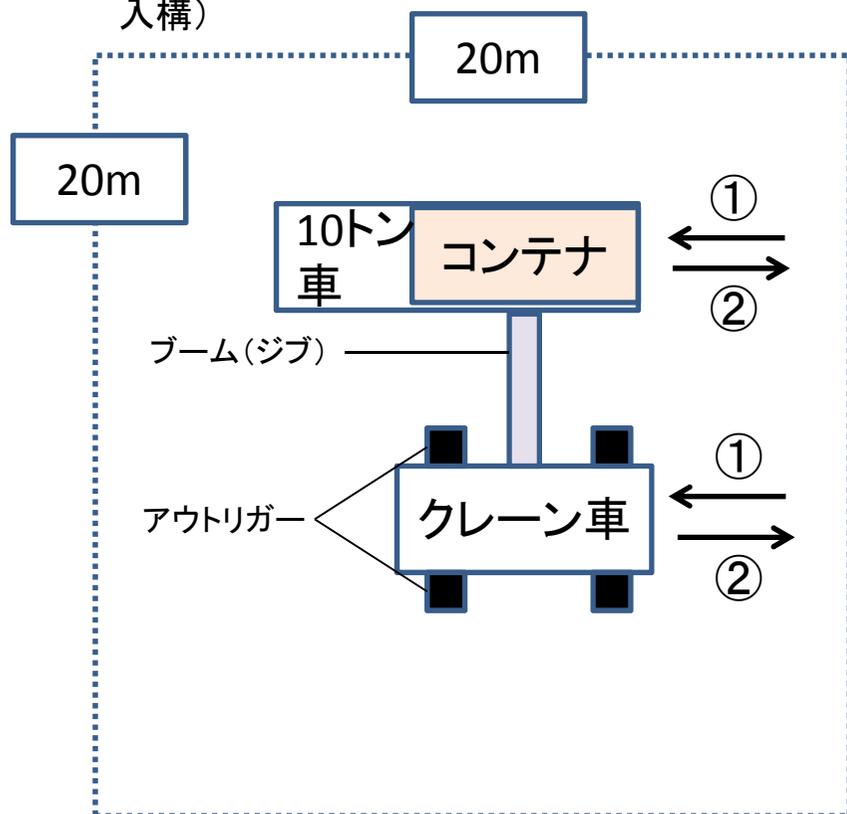
① 10トン車により、コンテナを会場に搬入（クレーン車も入構）



② 移動式クレーン車によりコンテナを降ろす（車両は退構）



③ コンテナの横に大型のエアテントを設置する



4 設置場所の要件等

1 設置場所の要件等

- 広さ(20m×20m)が確保できること
コンテナの積み下ろし作業を行うための広さが必要です。
- 車両の進入経路が確保できること
10トン車及び移動式クレーン車の進入経路が必要です。
- 耐荷重が25トン以上であること
移動式クレーン車でコンテナをつり上げるための耐荷重が必要です。(設置場所に加え、進入路にある側溝やマンホール等についても確認が必要です)
なお、各車両等の重量は概ね次のとおりです。
 - ・コンテナ 5トン(本体重量に積載物も含みます)
 - ・輸送車両(10トン車) 約25トン
 - ・移動式クレーン車 約20トン

2 設置レイアウトの要件等

- 避難車両の導線の確保が容易であること
車両検査及び除染を行うための設備であることから、車両の進入路・退出路を考慮して設置する必要があります。

3 設置にあたり確保できることが望ましい事項

- 外部電源(100ボルト電源)
- 車両除染用の水が確保できる場所